

5. 戦略ビジョンの推進

5. 戦略ビジョンの推進

1) 優先的に取り組むべきプロジェクト

■優先的に取り組むべきプロジェクト設定の考え方

プロジェクトの必要性

- ・戦略を具体化するための取り組みには様々なものが考えられるが、限られた資源を効果的に活用しつつ複数の戦略を一体的に具体化するためには、関連する複数の取り組みを、一つの目的を持った「プロジェクト」としてとらえ、優先的に推進していくことが有効と思われる。

設定の考え方

- ・各々の戦略がその具体化により求める効果と、優先すべき取り組みの考え方を整理し、優先プロジェクト設定の視点とコンセプトとして整理した。
- ・コンセプトを実現するために、各々の戦略を一体的に具体化できそうな取り組み（群）を、「優先的に取り組むべきプロジェクト」（優先プロジェクト）として設定した。

①戦略が求める効果

- ・戦略ビジョンの初期段階であるということをふまえた上で、各々の戦略において、プロジェクトに求められる効果を想定し、共通に求められる視点を抽出した。
 - 戦略の具体化による変化を皆が実感できる
 - 各々の戦略が求める効果をなるべく一体的に実現できる
 - 今後のまちづくりの展開につながる

②「優先」の考え方

- ・意見交換会（第5回ワークショップ）では、皆で考えたまちづくりコンセプトの実現のために「優先的に取り組むべきもの」をテーマに議論を行い、考え方を整理した。
 - 「すぐに直したい」「早く効果を出したい」などの時間的な「優先」の考え方
 - 「大宮らしくありたい」「まちを活気づけたい」などの内容的な「優先」の考え方
 - 「やる気を起こしたい」といった人々の気持ちを動かすための「優先」の考え方

③優先プロジェクト設定の視点

- ・戦略が求める効果や「優先」の考え方の検討をふまえ、各々の取り組みを優先プロジェクトとして設定していくための視点を整理した。
 - 「早期に着手が必要な取り組みを核とする」ことで、現在抱える課題へ対応すると同時に、将来的な戦略ビジョンの展開に向けた種をまく
 - 「核となる取り組みと関連する取り組みを組み合わせる」ことで、各々の戦略の一体的、効果的な推進を図る
 - 「複合的・連鎖的な効果が期待できるように組み合わせる」ことで、自律的なまちづくりの展開を図る

④コンセプト

- ・優先プロジェクトの推進やまちづくりの展開に向けて、各戦略に共通する視点や優先すべき取り組みの考え方を、関係者と共有する事が重要である。優先プロジェクトの目指す基本的な考え方を、「歩きたくなることから始めよう!!」というフレーズに象徴させた。
 - 短期的には、まず、賑わいや文化などを楽しみながらまちを安全、便利に歩けるようにする
 - 長期的には、市街地更新や都市基盤整備、緑の増加や景観形成、ルールや体制の構築など、各々の戦略にまたがる本格的なまちづくり展開の端緒となる

⑤優先プロジェクトの設定

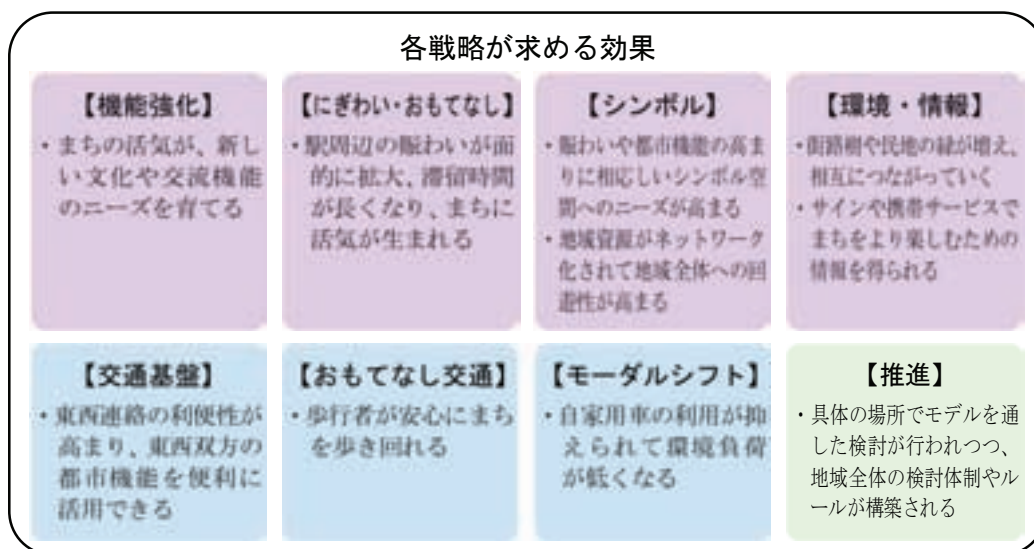
- ・コンセプトの実現に向けて、まず「歩きたくなるまち」を体現するような空間・活動づくりや交通体系の転換が必要である。
 - 主にまちづくり戦略から着手するためのプロジェクトとして「おもてなしひろば」を設定
 - 主に交通戦略から着手するためのプロジェクトとして「おもてなし歩行エリア」を設定
- ・さらに、これらのおもてなしひろばやおもてなし歩行エリアの充実を図りつつ、本格的なまちづくりを展開していくためには、各種のまちづくり事業の展開を図る事が必要である。
 - 主に民間側から事業を発意・推進していくプロジェクトとして「おもてなしまち再生」を設定
 - 主に行政側から事業を提案していくプロジェクトとして「連鎖型まちづくり」を設定
- ・これらのプロジェクトは、個別単体に存在するのではなく、各々の戦略や地域、民と官の連携のもとに、相互に推進されていく事をイメージしている。

■推進に向けて

- ・優先プロジェクトは、現段階で考えられる取り組み内容や取り組み方を例示的に示したものであり、次年度以降、具体的内容や場所、プログラム等について検討を行っていく予定である。
- ・優先プロジェクトの推進を行っていく中で、戦略の具体化と共有化を図ると同時に、様々なまちづくりの動きと連携しながら、多くの人々がまちづくりに夢と希望を持ち、自ら行動していくような環境づくりを推進していく。

図 優先的に取り組むべきプロジェクト設定の考え方

戦略の展開



- ・戦略の具体化による変化を皆が実感できる
- ・各々の戦略が求める効果をなるべく一体的に実現できる
- ・今後のまちづくりの展開につながる

優先プロジェクト設定の視点

① 早期に着手が必要な取り組みを核とする

- ・現状で問題を抱えている
- ・実現に時間はかかるが準備は今必要…等

② 核となる取り組みと関連する取り組みを組み合わせる

- ・すぐ、簡単にできる
- ・今あるものを活用できる…等

③ 複合的・連鎖的な効果が期待できるように組み合わせる

- ・色々な分野に効果がある
- ・ノウハウを生かせる
- ・一緒にやる方が効果が高い…等

- ・時間的な「優先」の考え方
- ・内容的な「優先」の考え方
- ・人々の気持ちを動かすための「優先」の考え方

「優先」の考え方

◇すぐに直したい！

- ・東武大宮駅や自由通路がラッシュ時の混雑が激しく危険
- ・駐輪場が不足している
- ・地元の人たちのまちづくりへの意識に差がある
- ・水川参道に通過交通が集中していて、環境面でも悪影響がある

◇早く効果を出したい！

- ・リニューアルやお金のかからないことからやる
- ・すぐに効果が出て、まちのイメージを変えられることから取り組む

◇大宮らしくりたい！

- ・大宮は「鉄道のまち」であり、歩行者を優先すべき(車のまちではない)
- ・街の顔、玄関である駅とその直近の整備が重要
- ・駅だけでなく、重要な資源である参道とその周辺の資源を活かす

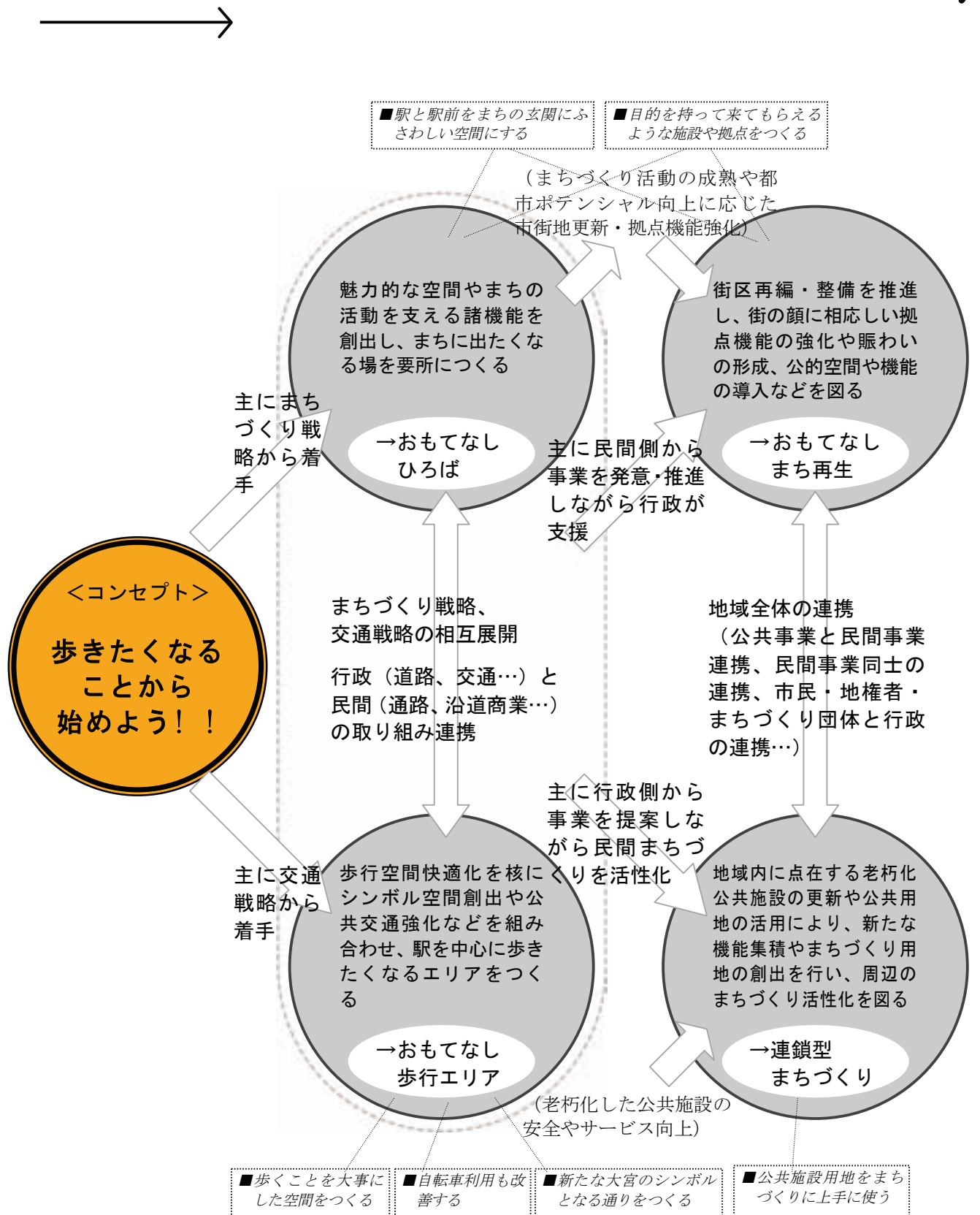
◇やる気を起こしたい！

- ・まちが変わる事例を示すことで、みんながあわてる、やる気になる

◇まちを活気づけたい！

- ・単なる交通結節点ではなく、目的を持って来てもらう場所というイメージを持たせる
- ・まち全体に人の流れが生まれることで、まちが活気づく

優先的に取り組むべきプロジェクトの設定



5. 推進

斜体文字は、検討素材とした第5回ワークショップの成果よりの抜粋（◇：「優先」の考え方、■：優先したい取り組み）

■プロジェクト1：「おもてなし歩行エリア」の形成

■ねらい

人が集まる大宮駅を中心に、道路整備や周辺の市街地整備と連携しながら、歩行者や自転車、公共交通を優先する交通体系へ転換し、誰もが安全に、まち歩きを楽しめる時間消費型のまちの実現を図ります。

(1) 検討事項と取り組み内容（例）

○歩行空間の快適化

- ・面的な交通規制や歩行空間の改善、緑化や景観形成、情報サービスの充実など、ソフトとハードの両面から歩行空間の快適化を図る。
- ・当面の具体化を目指すエリアや将来的な目標とするエリア等を設定し、段階的な実現を目指す。

○シンボル都市軸の整備

- ・氷川参道の緑との連続化を図るとともに、歩行者や自転車の空間整備を推進する。
- ・まちの顔にふさわしい沿道景観の形成や眺望を確保する。

○東西連絡の強化

- ・東西連絡路の利便性を改善するなど、東西連絡の強化について検討する。

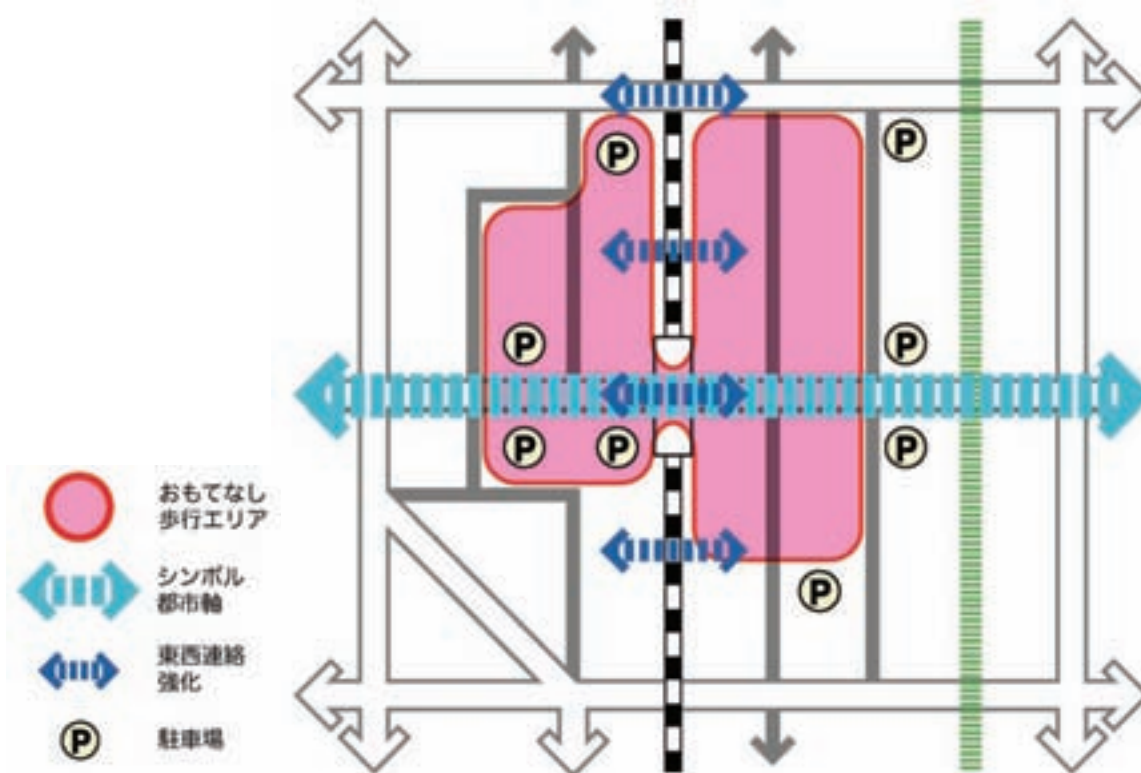
○駐車場・荷さばき交通の整序

- ・駐車場出入口の改善、集約駐車場の整備、荷さばきに関するシステム構築などにより、道路の出入りに伴う渋滞や歩行者との交錯を軽減する。

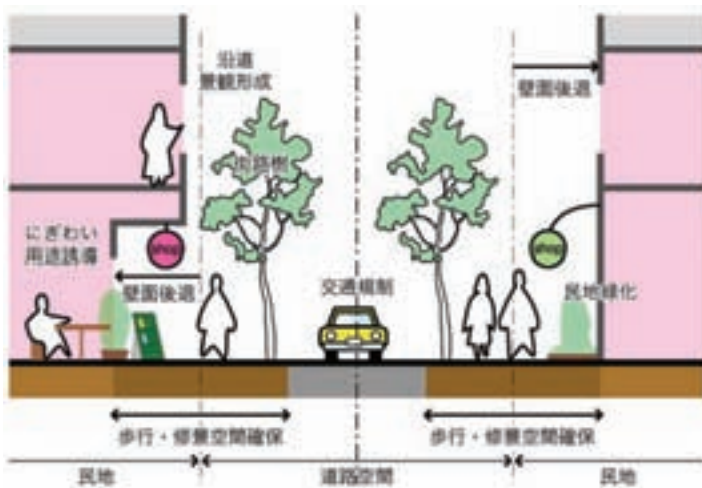
○自転車や公共交通の利用環境改善

- ・自転車ネットワークや駐輪場を整備する。
- ・レンタサイクルやパークアンドライド等のサービス、バスなど歩行者の移動をサポートする交通手段を提供する。

おもてなし歩行エリア形成のイメージ（具体的な場所・内容等は別途検討）



歩行空間の改善イメージ



取り組み方（例）

①おもてなし歩行エリアの設定

- ・当面の具体化を目指すエリアや将来的な目標とするエリアの設定

②エリア形成に向けた意識の醸成

- ・社会実験や部分的な先行整備などから段階的な歩行者優先化に着手

③民官連携による取り組み本格化

- ・民間による沿道空間や民地内通路等の整備と、行政による公共空間整備の推進

④範囲の拡大や内容の充実

- ・効果や課題をふまえたエリアの拡大や内容充実に向けた検討

※取り組み内容や取り組み方は今後の検討の中で具体化を図る

(2) まちづくりの効果

【交通戦略】

◎おもてなし交通戦略

- ・歩行者と自転車の混在による歩道の混雑や安全性低下、放置自転車による歩行環境やまちの景観悪化、荷さばき車両や駐車場への出入車両による道路混雑や歩行者の安全性低下などの課題を解決し、賑わいの中心である駅前から、おもてなし交通戦略を総合的に推進（すべての人がまち歩きを安心して楽しめる人優先の歩行空間を創出）

○交通基盤戦略、モーダルシフト戦略

- ・自動車利用の抑制に資する道路や駐車場等の整備促進
- ・公共交通、自転車の利用促進による、環境に配慮したライフスタイルの浸透

【まちづくり戦略】

(にぎわい・おもてなし戦略との相互作用)

- ・鉄道や自動車交通で分断されている歩行空間の改善による駅前の賑わい拡大や地域全体への回遊性の向上
- ・歩行者の滞留時間延長などによる商業的なポテンシャルの向上やイベント等の活性化
- ・商業的なポテンシャルの向上に伴う市街地更新の気運の高まり
- ・放置自転車や駐車車両の排除によるまちの景観・安全性の向上

(3) プロジェクト推進上の課題

①歩行エリアを支えるルールづくり（計画上の課題）

- ・景観や緑、歩行者ネットワーク等の形成
- ・民地と道路が一体となった都市空間の形成
- ・駐車・駐輪施設の附置義務

※将来的に大宮駅周辺地域外に開発が発生した場合への対応（エリアの拡大や回遊動線の連続、公共交通や自転車等による地域間連携等）

②歩行エリア形成に寄与するまちづくりの促進（事業促進上の課題）

- ・まちづくりに伴う公共貢献としての道路や歩行空間の整備、駐車・駐輪施設の集約整備への協力

③関係権利者との調整（体制上の課題）

- ・新規道路の整備や既存道路の使い方変更と交通規制の調整（交通管理者）
- ・荷捌きや搬出入などの業務活動との調整（商業・業務事業者）
- ・イベントなど歩行者優先空間の利活用（市民活動・商業事業者）

■プロジェクト2：「おもてなしひろば」の創出

■ねらい

まちなかのにぎわいや回遊の促進、都市の安全性や環境向上などに寄与する「機能」と、人が集い、憩い、楽しめる「空間」を備えた、大小さまざまな「ひろば」をまちのいたるところに配置することで、まち歩き魅力を高めていきます。

(1) 検討事項と取り組み内容（例）

【空間形成】

○駅前ひろば

- ・広域からの来街者も日常利用者も共通して誇れるまちの顔を創出する。
- ・交通結節機能だけでなく、人優先の空間としての整備を進める。

○まちなかひろば

- ・駅前からまちなかに人をひきつける魅力ある空間と機能を持たせることで、駅前の賑わいを広げる。
- ・東口では、周辺街区の整備とあわせて「ひろば」を創出し、西口では、既存の鐘塚公園やイベント広場のより一層の活用を図る。

○杜のひろば

- ・氷川参道の緑を広げ、参道散策の立ち寄りスポットとして都心全体の回遊性を高める。
- ・新たなひろばの創出とともに、既存の平成ひろば、一の鳥居ひろばの活用促進を図る。

○ミニひろば

- ・人々の憩いスポットをまちの各所に生み出し、高密度な市街地の環境を改善する。

【機能導入】

○交通結節機能

- ・「おもてなし歩行エリア」を支える交通体系を支援する。（駐車、駐輪、バスターミナル、バスシェルター等）

○まち情報受発信機能

- ・歩行環境の快適化を情報技術から支援する。（サイン拠点、大型ビジョン、無線LAN等）

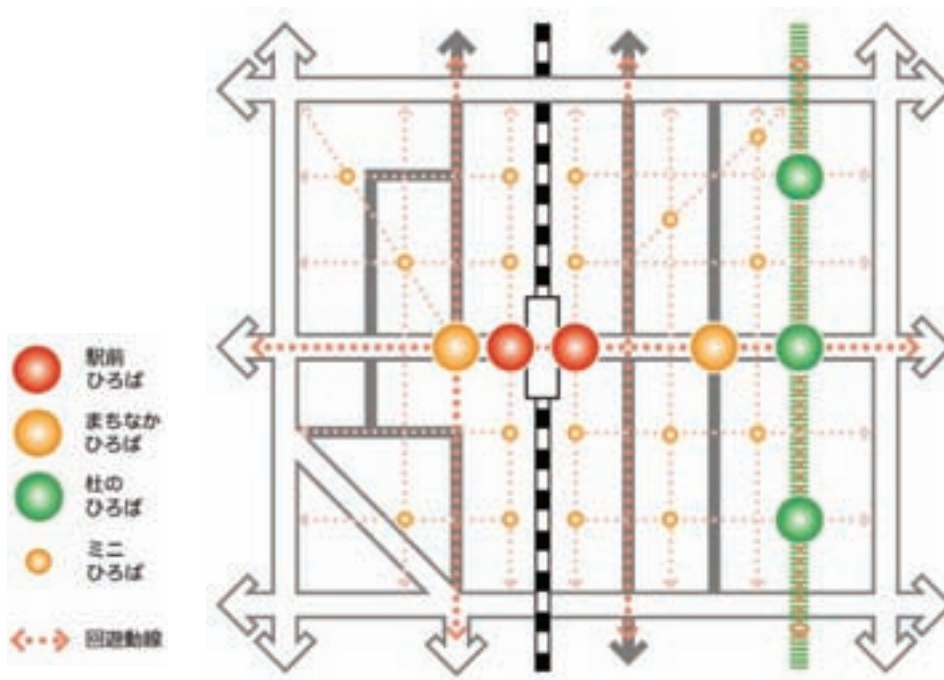
○防災機能

- ・安全、安心な就業環境や居住環境の形成を支援する。（備蓄倉庫、貯水、震災時救急対応等）

○地区省エネ機能

- ・都心の特性に応じた環境対策を支援する。（エネルギープラント、太陽光発電、ドライミスト等）

おもてなしひろば創出のイメージ（具体的場所・内容等は別途検討）



様々なひろばのイメージ

取り組み方（例）



公開空地を活用したまちなかひろば



屋内型のまちなかひろば



氷川参道や公共施設と一体となった杜のひろば

○駅前広場と周辺街区の強調による整備

- ・多様な機能を導入するための適切な区域設定や空間の重層的な活用
- ・交通結節点としての利便性の向上

○再開発や市有地の活用による整備

- ・まちづくりの促進とあわせた賑わい空間や公的機能の導入

○公共施設の再編による整備

- ・施設活動との連携や氷川参道の環境向上と調和する空間や機能の導入

○民間開発における整備の誘導

- ・建替にあわせた多様な「ひろば」創出の展開に向けた、ルールや支援制度の構築

※取り組み内容や取り組み方は今後の検討の中で具体化を図る

(2) まちづくりの効果

【まちづくり戦略】

◎にぎわい・おもてなし戦略

- ・まちなかに不足している人をひきつける公的空間（人が集う空間や回遊性を高める魅力的な空間など）の創出による駅前の賑わい拡大
- ・空間の活用によるイベント等の活発化、まちなかの滞留性の向上

○シンボル戦略、環境・情報戦略

- ・まちの顔にふさわしい十分な交通処理機能を備えた駅前広場の整備、新しいシンボル空間の創出、環境・情報に関するモデル的取り組み
- ・周辺敷地の環境向上や各種機能の活用によるまちづくりの促進

【交通戦略】

（おもてなし交通戦略との相互作用）

- ・歩行者ネットワークの要所で、休憩や情報提供などに活用できる立ち寄りスポットを創出

(3) プロジェクト推進上の課題

①ひろば創出に向けたルールづくり（計画上の課題）

- ・場所や性質に応じた空間イメージの共有
- ・周辺地域のまちづくりに応じた機能の導入（交通結節機能や施設の賑わいと一体化、緑環境や防災性の向上等）

②ひろば創出を伴うまちづくりの促進（事業促進上の課題）

- ・まちづくりに伴う公共貢献としてのおもてなしひろばの創出の誘導

③関連事業者の協働体制の構築（体制上の課題）

- ・駅前広場の検討における鉄道事業者、バス・タクシー事業者との調整、直近街区の地権者との一体的検討体制
- ・周辺の施設とひろばの一体的な運営体制

※都市計画の変更等を伴う大規模な計画策定には事業化と一体的な検討が必要

■プロジェクト3：複合的な事業促進による「おもてなしまち再生」

■ねらい

複合的な機能や事業を組み合わせた街区再編・整備の事業化を推進し、拠点機能の強化や基盤整備などを促進するとともに、大宮の商業環境のポテンシャル発揮、民間活力を活かした公的空間や機能の導入を図ります。

(1) 検討事項

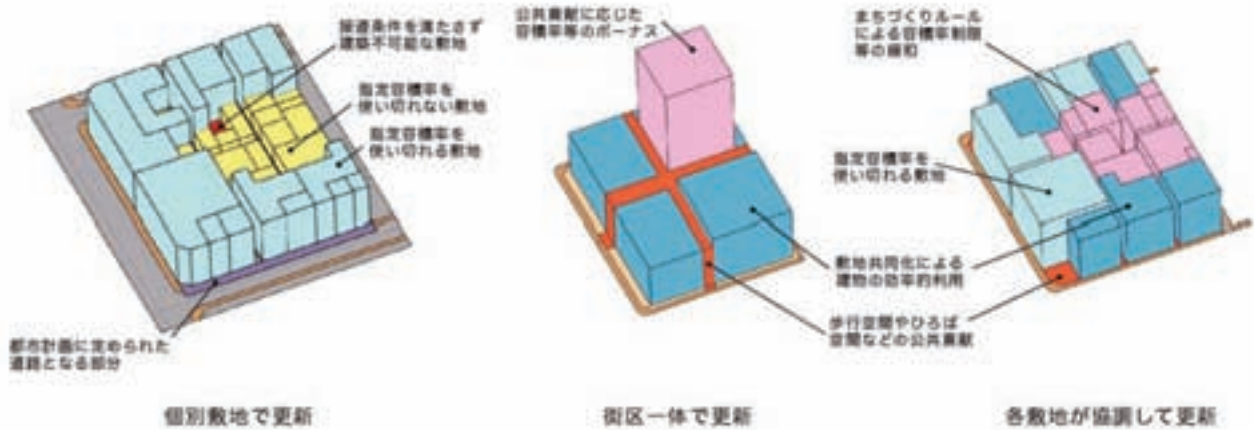
○地域の目指す再編・整備イメージ

- ・都市計画や空間構成等の現況、商業・業務等のポテンシャル、地元関係者の合意形成状況等をふまえた街区再編の目標（にぎわいづくり、高次都市機能の導入、防災性向上等）

○街区再編・整備の実現化方策

- ・街区再編・整備の課題（公共的な機能や空間、建物の効率的利用、生活の変化への対応、隣接街区との調和等）
- ・建物更新と公共貢献を両立させる整備手法（ルール形成、ルールに応じた規制緩和等）

様々な街区再編・整備のイメージ



取り組み方（例）

①先行地区のまちづくり促進

- ・建物老朽化が進んでいる東口駅前地区等の市街地更新
- ・民間事業に伴う公共貢献、一体的な公共空間の整備 等

- 「連鎖型まちづくり」との連携によるまちづくりの促進
- 先行的な取り組みをきっかけとしたまちづくりのチャンス拡大

②周辺へのまちづくりの波及

(2) まちづくりの効果

【まちづくり戦略】

◎機能強化戦略

- ・ 交流や情報など大宮の拠点性を高める都市機能の導入
- ・ 拠点を支える関連機能の周辺への立地誘導（業務・商業、地元の特徴的なショップ、シティホテルなど）
- ・ 周辺地区のまちづくり促進（連携開発や容積移転など）

○にぎわい・おもてなし戦略、シンボル戦略、環境・情報戦略

- ・ 建物更新や道路空間の整備などに伴う防災性や防犯性の向上
- ・ 魅力的な商業・文化施設や働く場所の創出による駅前の賑わい拡大や地域全体の回遊性の向上
- ・ 民間事業に伴う、都市環境向上に向けた公共貢献（おもてなしひろばなど）

【交通戦略】

（関連する箇所では交通基盤戦略やおもてなし交通戦略を実現）

- ・ 都市基盤の整備によるおもてなし歩行エリアの先導的形成（道路、歩行空間、駐車駐輪施設など）

(3) プロジェクト推進上の課題

①基盤整備や周辺まちづくりへの波及（計画上の課題）

- ・ 先行開発として、まちづくりルールを先導的に検討、地域のルールへの反映
- ・ 地域エネルギーシステムの導入や隔地駐車場など、周辺まちづくりを促進する公共貢献の検討

②民間まちづくりの中での公共貢献の誘導（事業促進上の課題）

- ・ おもてなし歩行エリアやおもてなしひろばの形成に対するインセンティブ

③文化・情報・交流など新規機能導入に向けた調整・検討（体制上の課題）

- ・ 誘致や整備を図る事業主体と相乗効果が発揮できる一体的な施設計画や運営体制の調整

■プロジェクト4：公共施設再編による「連鎖型まちづくり」

■ねらい

公共施設・用地や大規模用地の再編・土地利用転換などをきっかけとし、まちづくりに活用できる土地を創出し、連鎖的に駅周辺地域内のまちづくりの活性化を図るとともに、高次都市機能の導入や基盤整備、公共空間や機能の導入を図ります。

(1) 検討事項

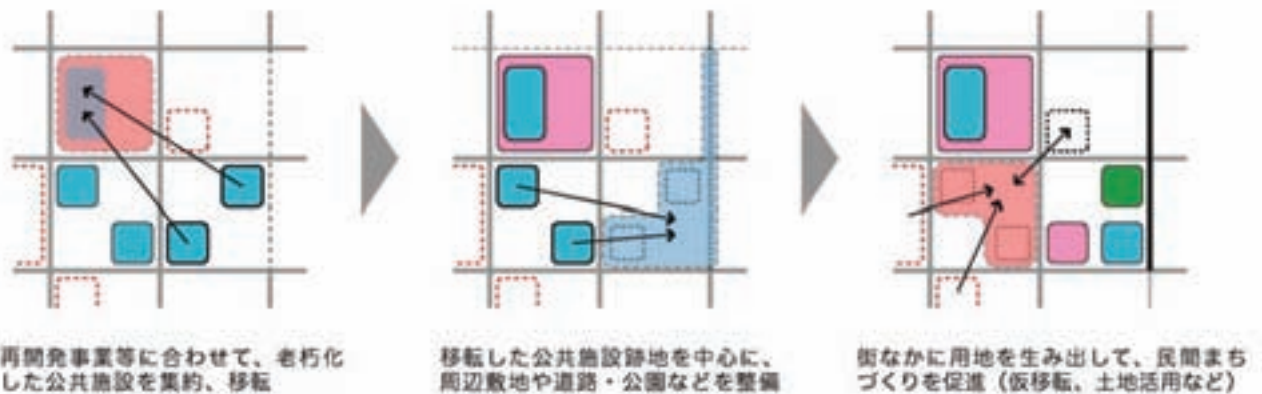
○大宮駅周辺地域のまちづくりの先導・誘発

- ・地域の都市環境の向上（駅前の賑わいや地域全体の回遊性、氷川参道周辺の緑環境等）
- ・駅周辺のまちづくりの活性化（「おもてなしまち再生」の促進、都市基盤の整備等）
- ・さいたま新都心との連携強化への寄与（両地区の間における拠点形成、周辺への波及等）

○公共公益サービスの強化

- ・総合的な都市機能強化への寄与（広域的な機能の導入や強化、地域行政サービスの充実等）
- ・老朽化した公共施設・機能の更新（安全・安心、防災性、環境性能等の向上）

まちづくりの展開イメージ



取り組み方（例）

①課題を抱える公共施設の再編

- ・老朽化や敷地分散などにより連鎖的な展開が期待できる区役所や市民会館等を中心とした機能再編、拠点形成

- 「おもてなしまち再生」との連携によるまちづくりの促進
- 先行的な取り組みをきっかけとしたまちづくりのチャンス拡大

②周辺へのまちづくりの波及

(2) まちづくりの効果

【まちづくり戦略】

◎機能強化戦略

- ・暮らしを支える公共サービスの機能強化
- ・おもてなしまち再生との連携、高次都市機能の導入や機能更新に伴う代替地の確保などまちづくり用地の創出・活用による周辺地区のまちづくり促進
- ・地域のまちづくりにおける公共施設のモデル的整備（おもてなしひろばの形成、防災・緑・景観・環境への配慮など）

○にぎわい・おもてなし戦略、シンボル戦略、環境・情報戦略

- ・駅から離れた場所への拠点形成や氷川参道沿いの環境改善による都心全体の回遊性向上

【交通戦略】

（関連する箇所で交通基盤戦略やおもてなし交通戦略を実現）

- ・都市基盤の整備によるおもてなし歩行エリアの先導的形成（道路、歩行空間、駐車駐輪施設など）

(3) プロジェクト推進上の課題

①基盤整備や周辺まちづくりへの波及（計画上の課題）

- ・先行開発として、まちづくりルールを先導的に検討、地域のルールへの反映
- ・公共施設として、周辺まちづくりのモデルとなる高質な施設・環境整備
- ・公共施設用地に隣接する道路の整備や民間敷地も含んだ土地利用の整序

※将来的にまちづくりに活用可能な潜在力を持つ用地の有効活用（公共用地、大規模用地等）

②地域全体のまちづくり活性化促進（事業促進上の課題）

- ・公共用地を活用した民間まちづくり支援など、おもてなしまち再生との連携

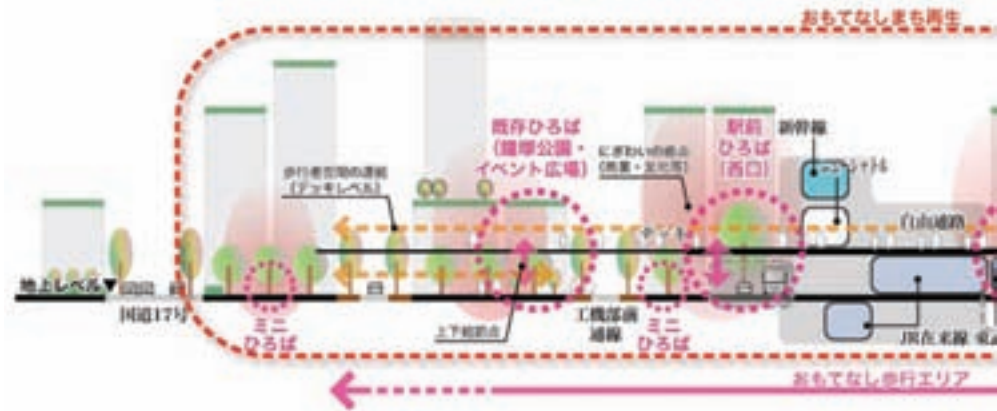
③各施設所管部局との調整（体制上の課題）

- ・各施設の特性や事情と、まちづくりとして望ましい機能配置の調整

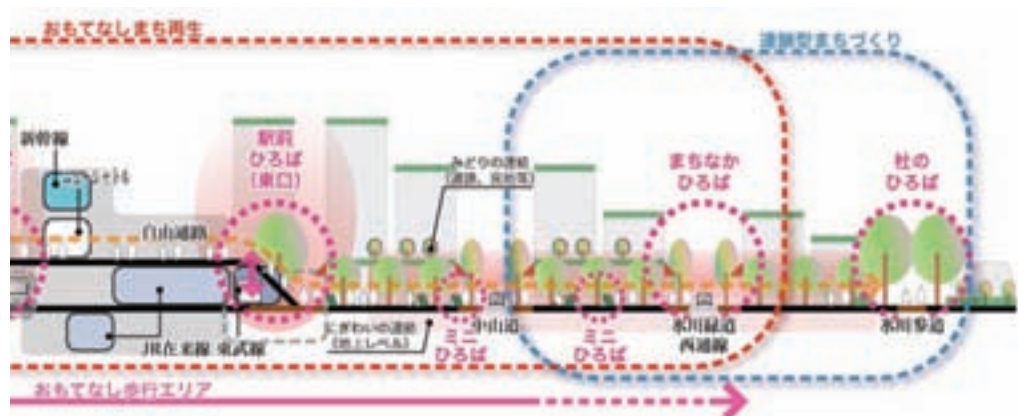
プロジェクトの推進によるまちづくりの展開イメージ



【西口】



【東口】



■プロジェクト推進に向けての今後の検討事項

- ・各プロジェクトの推進にあたっては、計画上の課題（将来イメージやまちづくりのルール、プロジェクト毎の計画策定等）、事業促進上の課題（まちづくりの始動や事業化等）、体制上の課題（関係者の合意形成や各プロジェクト間の調整等）が想定される。
- ・今後、プロジェクトの検討を行っていく中で、個別の計画策定や事業化、検討体制の構築などに、取り組んでいく必要がある。
- ・また、各プロジェクト内部だけではなく、大宮駅周辺地域全体のまちづくりと一体的に考える必要がある課題も存在するため、推進戦略の具体化を図りながら、戦略ビジョンの推進に向けた取り組みを行っていく必要がある。

今後の検討事項

①計画

- ・個別の計画検討の前提となる、地域の具体的な将来イメージやまちづくりのルール
- ・各プロジェクトの具体化・詳細化に向けた取り組み

②事業促進

- ・戦略ビジョン推進のトリガーとして、民間によるまちづくりが始動するきっかけづくり
- ・まちづくりの事業化に向けた資金や制度等の支援

③体制

- ・各プロジェクトにおける関係者の抽出と、合意形成に向けた協議・調整
- ・各プロジェクト間の連携と地域全体の進行管理

2) 戦略ビジョンの推進方策

- ・大宮駅周辺地域戦略ビジョンは、平成20～21年度の2ヵ年をかけて、委員会、地元、行政の三位一体の体制により検討を行い、「将来像」「将来像を実現するための戦略」とともに、戦略を確実に実践していくための引き金となる「優先的に取り組むべきプロジェクト」を定めるものであるが、次年度以降、この戦略ビジョンに基づくまちづくりを推進するにあたっては、さらに詳細な検討を行う必要がある。
- ・推進戦略の考え方をふまえて、今後検討すべき課題を整理する。
- ・次年度以降は、これらの課題に対応するための推進方策を検討しながら、より実行力のある計画として戦略ビジョンを推進していく。

戦略ビジョン推進上の課題

- ①優先的に取り組むべきプロジェクトの推進に向けた課題に対応しながら、整備計画として具体化・詳細化する
- ②優先的に取り組むべきプロジェクトを具体化・詳細化する際に、戦略ビジョンの考え方に基づいた計画となるよう基本的なルールを定めるとともに、ハード面だけでなくソフト施策や身近なところからできるまちづくりに取り組めるようにする
- ③まちづくりを促進するため、戦略ビジョンの実現への貢献が大きい取り組みに対する適切なインセンティブ付与を検討する
- ④優先的に取り組むべきプロジェクトを具体化・詳細化するため、プロジェクトの主要な関係者を想定し、それら関係者による協働・協調の場を構築する
- ⑤事業の進捗状況や社会情勢の変化をふまえつつ、常に時代のニーズにあった戦略ビジョンとして推進する

これらの課題に対応するため、次年度以降、

- 「地区別の整備計画」「ガイドライン」の策定
- 「民官協働の場」「進行管理の仕組みと体制」の構築

から取り組み、戦略ビジョンを推進する

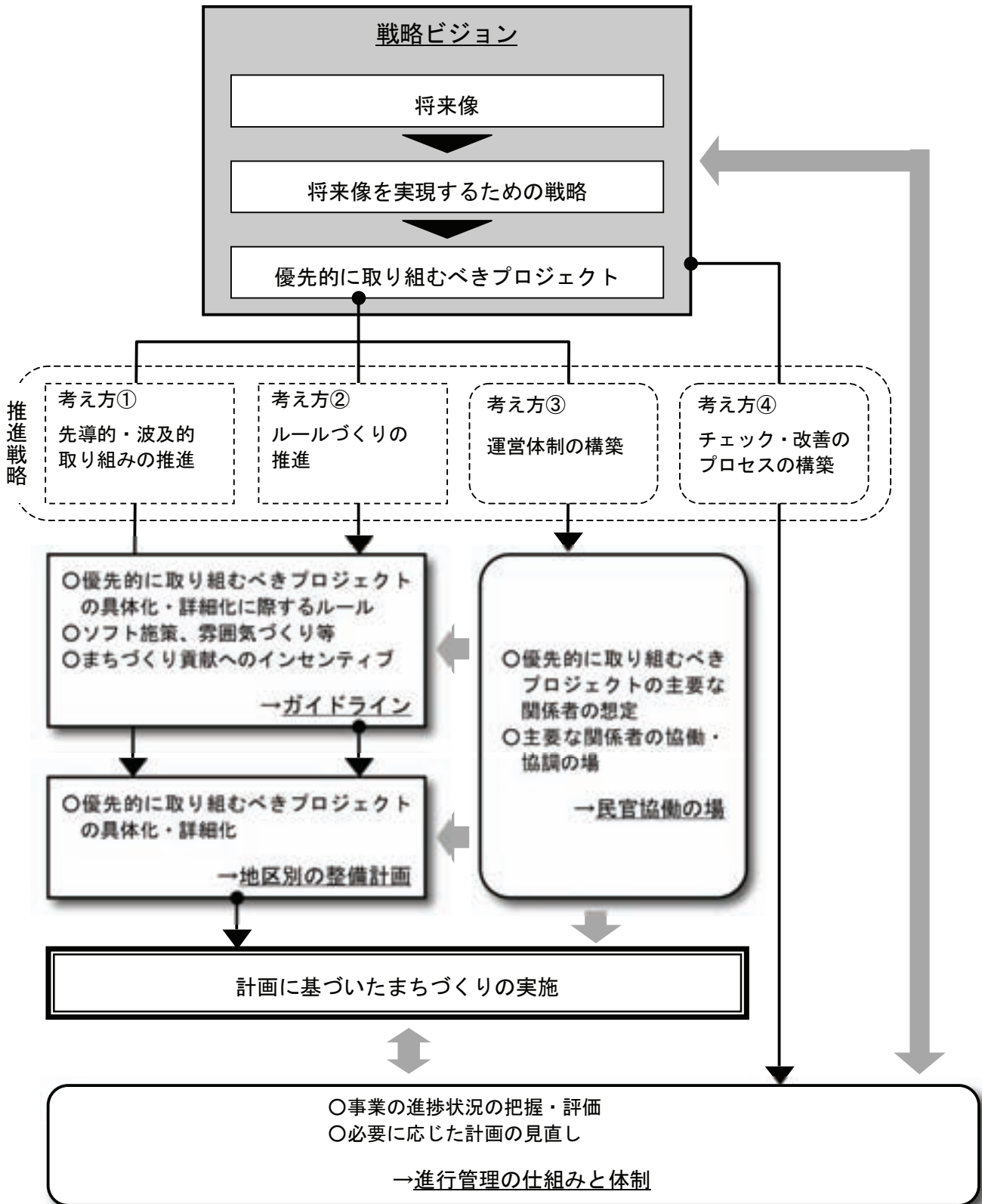


図 戦略ビジョンの推進イメージ (今後の展開)

■「おもてなしガイドライン（仮）」づくり ～徹底したおもてなしの追求～

- ・地域主体のまちづくりが同じ方向を向いて進むように、戦略ビジョンで示した将来像を実現するための基本的なルールを定めて関係者間で共有できるように、まちづくりのガイドラインを策定する。
- ・氷川の杜に代表される大宮独自の地域資源を活用したおもてなしが街の至るところで感じられるようになれば、地域の人が誇りに思える東日本の顔としてふさわしい都心地区を形成することができると考えられる。
- ・大宮駅周辺地域のまちづくりを考える上で重要性が高い「おもてなし」について、ソフト・ハードの両面から徹底的に追求し、まちに関わる人々の間で共通認識を持つことにより、全国でも類を見ない「おもてなしの都心」を目指す。

①極意編：個人でもできるおもてなしの方法や作法を学び、雰囲気づくりに取り組む

- ・おもてなしのプロとも言えるコンシェルジュ、キャビンアテンダント、老舗店の女将などが実践しているお客様をもてなすためのサービス、立ち居振る舞い、ちょっとした工夫などを紹介する。
- ・東西の街の景観や空気感の違いなども意識しながら、洗練されすぎない、大宮ならではの街の雰囲気づくりにつなげる。
- ・ハードだけでなくソフト面から、また、1人1人の心がけ次第でもできることから実践し、着実に「おもてなし」を街なかに浸透させることをねらいとする。

②まちづくり編：大宮ならではのおもてなしが感じられる空間や環境をつくる

- ・優先的に取り組むべきプロジェクトを具体的に推進していく中で、氷川神社、盆栽、鉄道などに代表される世界に誇れる地域資源を活用し、東日本の顔にふさわしい都心としての空間や環境を整備するための基準や基本的なルールを定める。
- ・特におもてなしのまちづくりに大きく貢献する取り組みに対しては、適切なインセンティブが付与できるような仕組みをつくり、個別整備時の「おもてなしのまちづくり」への誘導を図る。

【個別整備時の基準や基本的なルール（例）】

- エリアの特性に応じた「おもてなし」を展開するための用途の制限や容積率等の規模、壁面の位置、緑被率など
- 「氷川の杜」に代表される歴史や自然、文化が感じられるような建築物の形態・意匠・色彩や高さの制限など
- 「東日本の顔」となる都心として安心安全な都心生活を送るための集中豪雨時の排水対策、保水性舗装や貯水施設等一時貯水への対応など

【おもてなしのまちづくりへの貢献項目（例）】

- 民地内通路の形成・連続化、憩い空間の確保→「おもてなし歩行エリア」への貢献
- 地域エネルギーシステム導入、まちかど情報コーナー設置→「おもてなしひろば」への貢献
- まちかど情報コーナーの設置→おもてなし情報発信への貢献

■民が主体となった整備計画づくり ～優先プロジェクトの具体化・詳細化～

- ・優先的に取り組むべきプロジェクトをはじめ、個別の施策や事業を推進するためには、活用できる事業手法や補助メニュー、概算費用なども検討し、計画として深化させる必要がある。
- ・地域の実態とした計画とするためにも、計画主体を行政から民間にシフトし、ガイドラインで定められた事項もふまえながら、地区別の具体的な整備計画を検討・立案する。

①整備計画として検討すべき事項

- ・整備計画の中では、敷地や建物の計画とともに、都市計画手法（地区計画等）や事業手法（土地区画整理事業、市街地再開発事業等）の内容について定めるとともに、ガイドラインで定められたルールに則り、整備時の詳細なデザインや設えについても明らかにする。

②整備計画立案のプロセス

- ・地区別の整備計画立案に向けた第一歩は、民間がまちづくりに取り組もうという考えを持つ（発意する）ことである。
- ・優先的に取り組むべきプロジェクトとして設定した「おもてなし歩行エリア」「おもてなしひろば」「おもてなしまち再生」「連鎖型まちづくり」に関わりのある地権者や民間事業者等が、この考え方をふまえつつ、自身の地区での整備計画立案に向けた検討を開始する。
- ・これを受け、行政が直接相談に乗ったり、専門家の派遣や関係事業者等との協議・調整を支援したりしながら、計画の素案をつくる。
- ・素案ができた段階で、地権者を始めとする様々な関係者との合意形成を図るとともに、ガイドラインを活用しながら行政と具体的な計画内容の調整や実現手法の協議を行い、整備計画として立案する。
- ・行政が民間により作成された整備計画を受け取り、公定化の手続きを経て、実行計画として推進される。

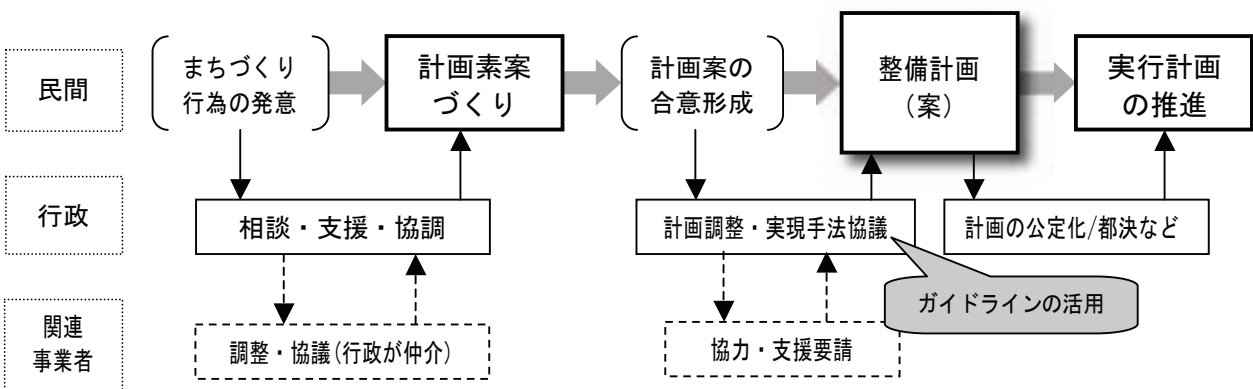


図 整備計画の策定～実行までの流れ

■大宮ならではの体制づくり ～民官協働の場の構築～

- ・戦略ビジョンで定められたことを共有しながら、プロジェクトの具体化・詳細化やガイドラインづくりを進めるためには、まちづくりへの関わりが強い地権者や各種事業者等の民間と行政が協力・協調しながら取り組むことが重要であるため、民官協働による検討・調整の場づくりが必要となる。
- ・学識者や専門家による検討や支援を受けつつ、民間によるまちづくり検討の場や行政間の調整の場を併せて持つことで、このような場を機能させることができる。

①それぞれの役割

- ・ **地権者**：整備計画の立案、計画に基づくまちづくり活動の実行の主体
- ・ **事業者**：地権者が中心となって立案する整備計画およびまちづくり活動への積極的参加
(場合によっては主体となる)
- ・ **行政**：計画立案の主体となる民間のサポーター（専門家派遣、勉強会への助成、まちづくりのための市民相談窓口の開放等による支援）、庁内の横断的な連携によるまちづくり計画の調整・公定化、計画に基づく基盤整備の実施主体
- ・ **専門家**：民間による計画検討や行政との協議・調整に対するアドバイザー

②NPOや市民との情報共有・意見交換

- ・大宮駅周辺地域のまちづくりは、地元の関係者のみならず、さいたま市民全般や各種活動を行っているNPO等にも関わりのあるものである。
- ・また、まちづくり活動を持続的に展開していくためには、地元事業者の声を聴くことや、若い世代を巻き込んでいくことが重要となる。
- ・多様な関係者と大宮のまちづくりの状況について共有するため、広く情報を公開するとともに、必要に応じて意見を聴くための場を設ける。

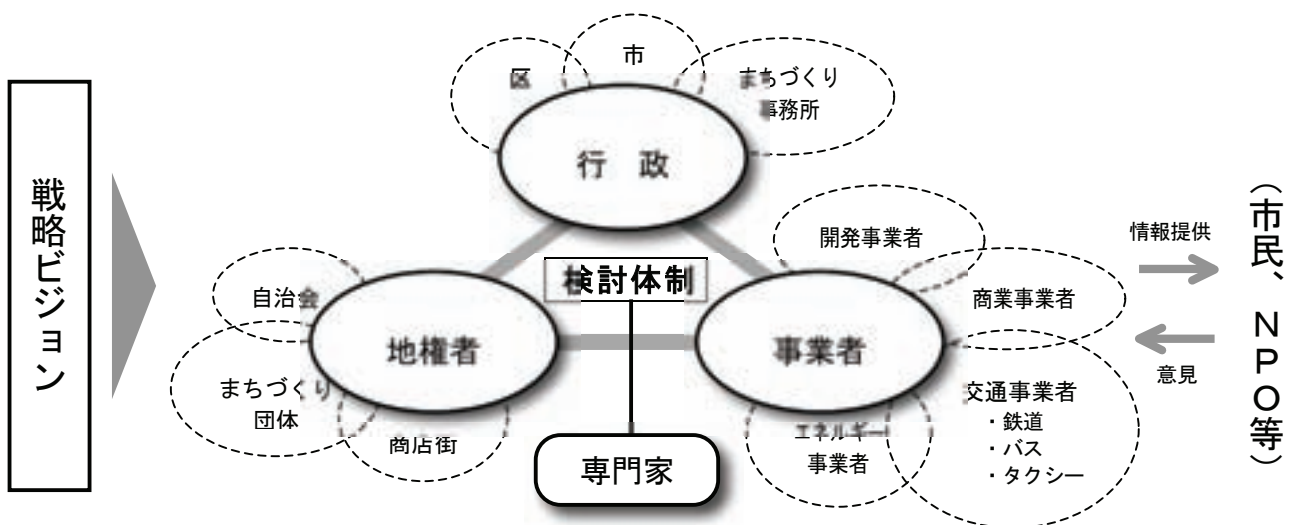


図 民官協働による検討体制イメージ

■戦略ビジョンの進行管理 ～学識者や専門家などによる評価と見直し体制～

- ・次年度以降は、新たな組織・体制の元で、優先的に取り組むべきプロジェクトの具体化・詳細化とそれに沿ったまちづくりを実践する段階に入る。
- ・計画がある程度進捗した段階では、戦略ビジョンに示された思想がどの程度達成できているかを評価したり、社会経済状況に大きな変化が生じた段階には、戦略ビジョンそのものの内容を改めて見直したりしながら、時代背景にも見合ったまちづくりを展開していくことが、これからの大宮のまちづくりを継続的に進めていく上では重要となる。
- ・これらの役割を担う場として、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン懇談会（仮）」を設置する。
- ・懇談会は、学識経験者や地元関係者、地域の方々などで構成することを想定する。
- ・懇談会は、必要に応じて招集され、各種計画の内容の確認や実行後の評価、戦略ビジョンの見直しの判断や指示を行う。
- ・戦略ビジョンを見直す際には、これまでと同様に、地元・市民との連絡協議を行いながら進める。

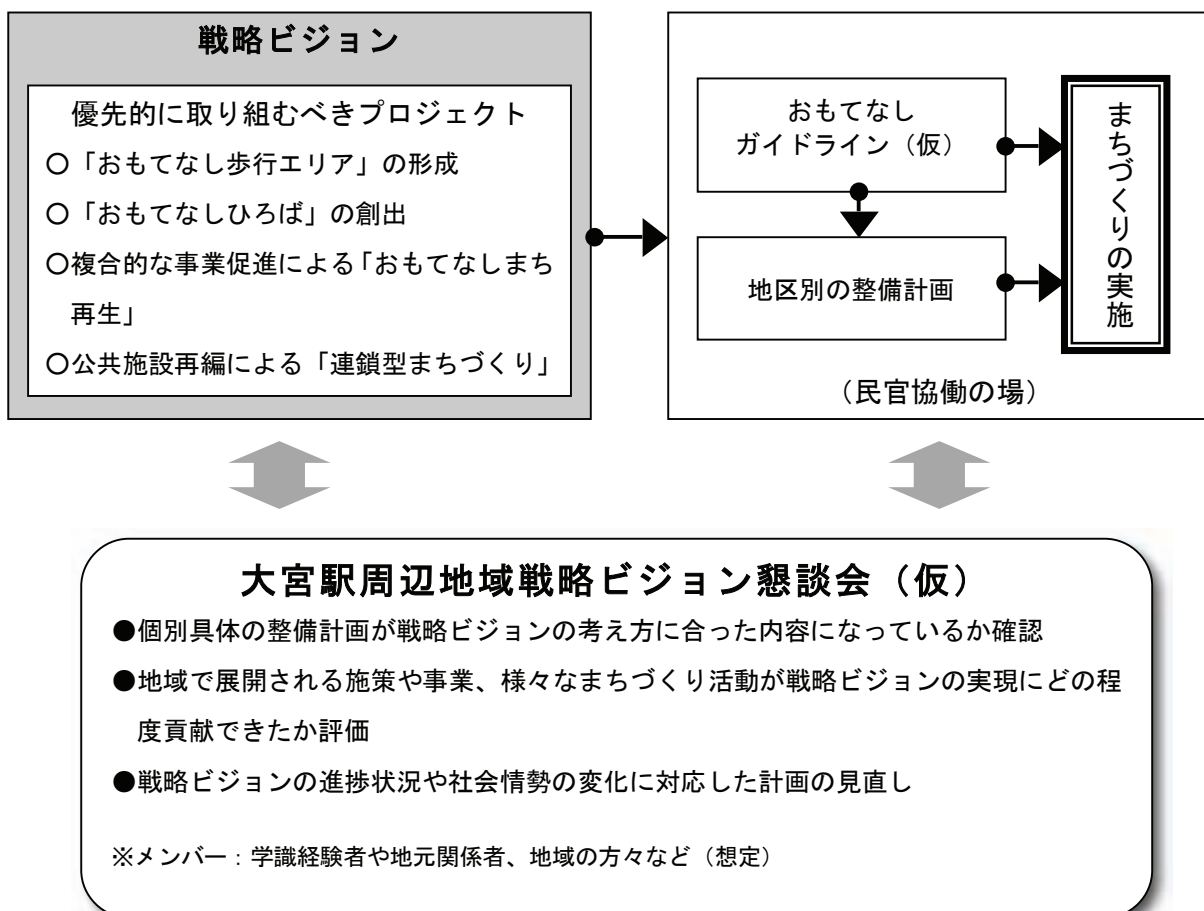


図 進行管理の体制と仕組み

「戦略ビジョンの推進」に関わる地元のみなさまのご意見 ～大宮の未来を考えるワークショップ（平成21年度意見交換会）の成果より～

■「優先」の考え方

○大宮らしくありたい！

- ・大宮は「鉄道のまち」であり、歩行者を優先すべき（車のまちではない）。
- ・街の顔、玄関である駅とその直近の整備が重要。
- ・駅だけでなく、重要な資源である氷川参道とその周辺の資源を活かす。

○すぐに直したい！

- ・東武大宮駅や自由通路がラッシュ時の混雑が激しく危険。
- ・駐輪場が不足している。
- ・地元の人たちのまちづくりへの意識に差がある。
- ・氷川参道に通過交通が集中していて、環境面でも悪影響がある。

○まちを活気づけたい！

- ・単なる交通結節点ではなく、目的を持って来てもらう場所というイメージを持たせる。
- ・まち全体に人の流れが生まれることで、まちが活気づく。

○早く効果を出したい！

- ・リニューアルやお金のかからないことからやる。
- ・すぐに効果が出て、まちのイメージを変えられることから取り組む。

○やる気を起こしたい！

- ・まちが変わる事例を示すことで、みんながあわてる、やる気になる。

■優先したい取り組み

○歩くことを大事にした空間をつくる

- ・歩行者優先エリアを設定する。
- ・明るくてセンスの良い照明や舗装にリニューアルする。
- ・歩道上の障害物を撤去する。
- ・放置自転車への対策を行う。
- ・路地の個性を演出し、周知する。
- ・東西横断を改善する。
- ・通過交通を入れないように幹線道路の車道を縮小する。
- ・氷川参道を歩行者専用道路に向けて氷川緑道西通線を早期に整備する。

○自転車利用も促進する

- ・自転車レーンや駐車を整備する。
- ・自転車ルールを周知し啓発する。

○駅と駅前をまちの玄関にふさわしい空間にする

- ・東武大宮駅の改札口を新設する。
- ・駅から街に出る動線をスムーズにする。
- ・駅前広場を周辺街区と一体的に整備し、高容積の商業集積エリアを形成する。

○新たな大宮のシンボルとなる通りをつくる

- ・大宮中央通に緑陰を創出し、カッコいい緑のメインストリートにする。
- ・氷川参道をやすらぎのある空間にする。

○目的を持って来てもらえるような施設や拠点をつくる

- ・情報発信と集客の拠点としてNHKを導入する。
- ・現状のまちに不足している施設を導入する。
- ・まちの回遊を促すような場所を主要施設の配置場所として選定する。
- ・平成ひろばで定期市を開催する。
- ・市民会館おおみやを芸術館にする。
- ・みんなが集う大宮小学校にする。

○公共施設用地をまちづくりに上手に使う

- ・大門2丁目の市有地を活用して街を再編する。
- ・大宮小学校を含め、区役所、市民会館等を再編する。
- ・まちづくり組織のモデルを構築し、各地区にノウハウを提供する。
- ・エコ・モデルとしての取り組みを実現する。
- ・区役所用地や小学校の地下をまちづくりに活用する。

※この他にもたくさんのご意見を頂きました。

